

事業評価シート（平成20年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	歴史的建造物保存・活用事業		
事業担当	社会教育部 社会教育課 文化財保護担当		
予算科目	01-100501-030200	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	04	4 価値ある歴史的遺産を守り伝える環境をつくる	
根拠法令等	文化財保護法		
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
「旧横浜ゴム平塚製造所記念館」の移築復原工事が終了し、新名称が決定されて開館するとともに、市民に活用されています。		歴史的に価値のある建造物「旧横浜ゴム平塚製造所記念館」を市民の貴重な歴史財産として保存・活用します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	移築復原工事進捗率						単位	%
	説明・算定式	H19：移築復原工事40%、H20：移築復原工事60%（工事費により割合を算出）							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		40	100	—				
成果指標②	指標名	イベント開催回数						単位	回
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		—	—	15				
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
国の登録有形文化財（建造物）である旧横浜ゴム平塚製造所記念館を市民の貴重な財産として八幡山公園に移築・復原しました。また、この建物の愛称募集を行い、「八幡山の洋館」に決定しました。さらに、効率的な管理運営を目的に指定管理者制度を導入しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	明治時代の歴史的建造物を市民の貴重な財産として、保存・活用するものであり、価値ある歴史的遺産を守り伝える環境づくりのために必要です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> その他	市民の歴史的建造物への理解と認識の向上につながり、また、県内でも数少ない明治時代の洋風建造物を平塚の新しいシンボルとして位置づけ、まちの活性化につながることから有効です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	登録有形文化財の有効活用を図るものであることから妥当です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	管理運営については、指定管理者制度によることを検討し、効率性を高めました。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
今後に向けた課題の分析 事業分析の評価は高いです。但し、指定管理者制度の効果として、管理運営の効率化を図るとともに、一方で利用者増加、市民サービスの向上にむけたイベントの検討などが必要です。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			移築復原工事	移築復原工事	各種イベントの開催	各種イベントの開催		
財源内訳	国庫支出金	0	72,609	23,911	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	46,000	74,000	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	13,537	0	0	0	0
	一般財源	0	22,439	37,441	16,467	16,467	0	0
事業費 (A)		0	141,048	148,889	16,467	16,467	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	2.10	1.05	1.05	0.50	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.30	0.00	0.00
人件費 (B)		0	17,622	8,811	8,774	5,213	0	0
フルコスト (A+B)		0	158,670	157,700	25,241	21,680	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input checked="" type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 入場者数の増加、市民サービスの向上にむけたイベント等を開催します。	
平成22年度の取組方針	
移築・復原が完了したため事務事業とし、今後は各種イベントの開催を含めて、歴史的建造物の保存・活用を図ります。	
課長コメント	施設の管理運営についてモニタリングによる検証を実施し、イベントの事業分析も行います。その分析結果に基づき、必要に応じて指定管理者と協議を行いたいと考えています。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		国の登録有形文化財（建造物）である旧横浜ゴム平塚製造所記念館を市民の貴重な財産として八幡山公園に移築・復原工事を進めた。また、平成21年4月の開館に向けて管理運営ワークショップ等も実施し、管理運営の基本方針を検討した。これらにより保存・活用に向けて準備を進めることができた。	国の登録有形文化財（建造物）である旧横浜ゴム平塚製造所記念館を市民の貴重な財産として八幡山公園に移築・復原しました。また、この建物の愛称募集を行い、「八幡山の洋館」に決定しました。さらに、効率的な管理運営を目的に指定管理者制度を導入しました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性の評価は高い。また、効率性の部分で、指定管理者制度を活用し、管理運営の効率化を図り、コスト削減にもつなげる。	事業分析の評価は高いです。但し、指定管理者制度の効果として、管理運営の効率化を図るとともに、一方で利用者増加、市民サービスの向上にむけたイベントの検討などが必要です。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	縮小して継続
取組方針		平成21年4月に開館し、各種イベントを開催する。	移築・復原が完了したため事務事業とし、今後は各種イベントの開催を含めて、歴史的建造物の保存・活用を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	事務事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	無形文化財保存事業		
事業担当	社会教育部 社会教育課 文化財保護担当		
予算科目	01-100501-040000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	04	4 価値ある歴史的遺産を守り伝える環境をつくる	
根拠法令等	文化財保護法		
対象・受益者	民俗芸能継承団体、一般市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
郷土芸能が継承・保存され、後継者の育成が図られています。		郷土芸能の継承と後継者の育成を図るため、民俗芸能まつりの開催、演技指導者の派遣、文楽人形伝承団体及び指定重要無形文化財の保存に対する支援などを行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	民俗芸能まつりの開催回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		1	1	1	1	1	1	
	実績		1	1					
活動指標②	指標名	人形浄瑠璃芝居保存団体数						単位	団体
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		3	3	3	3	3	3	
	実績		3	3					
成果指標①	指標名	民俗芸能まつり参加団体数						単位	団体
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		5	5	5	5	5	5	
	実績		5	5					
成果指標②	指標名	民俗芸能まつり参加者数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		400	400	400	450	450	450	
	実績		379	394					
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
無形文化財の保存と伝承を目的に、市内の民俗芸能継承団体による第32回ひらつか民俗芸能まつりを平成20年11月16日（日）に中央公民館大ホールにおいて開催し、市内に伝わる郷土の民俗芸能について理解を深めました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	長い歴史の中で守り伝えられてきた無形文化財について理解し、郷土の民俗芸能が保存・継承され、後継者の育成につながるものであるため、必要です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	継続することが、無形文化財について市民の理解と認識の向上につながり、有効です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	無形文化財の保存・継承を図ることは、郷土の文化についての理解につながるという考えから、継承団体に対する支援は妥当です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	事業の運営方法が検討課題です。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
今後に向けた課題の分析 必要性、有効性、妥当性の評価は高いが、効率性の部分で、事業の運営方法を検討するとともに、後継者の育成が重要な課題です。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			民俗芸能まつりの開催、補助金の交付	民俗芸能まつりの開催、補助金の交付	民俗芸能まつりの開催、補助金の交付	民俗芸能まつりの開催、補助金の交付	民俗芸能まつりの開催、補助金の交付	民俗芸能まつりの開催、補助金の交付
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	1,188	1,198	1,338	1,300	1,300	1,300
事業費 (A)		0	1,188	1,198	1,338	1,300	1,300	1,300
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	1.20	1.20	1.20	1.05	1.05	1.05
	再任用 (人)	0.00	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
人件費 (B)		0	10,584	10,584	10,545	9,292	9,292	9,292
フルコスト (A+B)		0	11,772	11,782	11,883	10,592	10,592	10,592

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 文化財保護法にのっとり遂行する必要があり、現状維持とします。また、後継者育成の手法を検討していきます。	
平成22年度取組方針	
無形文化財の保存・継承には、その公開も重要な要素です。したがって、事業は現状の規模で行うが、運営方法を検討し、経費節減を図ります。	
課長コメント	民俗芸能団体の育成は、文化財の保存・継承には大切なことであり、引き続き実施します。後継者の育成については各団体との意見交換を交えその具体的な手法を検討したいと考えています。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		無形文化財の保存と伝承を目的に、市内の民俗芸能継承団体による第31回ひらつか民俗芸能まつりを平成19年11月18日（日）に中央公民館大ホールにおいて開催した。当日は、多くの市民の来場があり、市内に伝わる郷土の民俗芸能について理解を深めた。	無形文化財の保存と伝承を目的に、市内の民俗芸能継承団体による第32回ひらつか民俗芸能まつりを平成20年11月16日（日）に中央公民館大ホールにおいて開催し、市内に伝わる郷土の民俗芸能について理解を深めました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性の評価は高いが、効率性の部分で、事業の運営方法を検討することにより、コスト削減につなげる。	必要性、有効性、妥当性の評価は高いが、効率性の部分で、事業の運営方法を検討するとともに、後継者の育成が重要な課題です。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		無形文化財の保存・継承には、その公開も重要な要素である。したがって、事業は現状の規模で行うが、運営方法を検討し、経費節減を図る。	無形文化財の保存・継承には、その公開も重要な要素です。したがって、事業は現状の規模で行うが、運営方法を検討し、経費節減を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。